

HTLV-1総合対策の概略と現状について

令和8年3月13日（金） 第16回HTLV-1対策推進協議会

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部
感染症対策課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

HTLV-1 対策の経緯

平成14年	<ul style="list-style-type: none">第1回HTLV/ATL研究発表会開催。HTLV-1感染者疫学調査（JSPFAD）開始。
平成15年6月	<ul style="list-style-type: none">HAMの患者会「アトムの会」鹿児島で結成。
平成17年12月	<ul style="list-style-type: none">NPO法人「日本からHTLVウイルスをなくす会」設立。
平成20年5月	<ul style="list-style-type: none">HTLVの研究者や関連疾患の臨床医によって「HTLV-1研究会」が発足
平成21年7月	<ul style="list-style-type: none">研究者・患者団体の有志により「HTLV-1感染総合対策等に関する有識者会議」が設置され、「厚生労働省が対策を総合的に推進する枠組みを確保し、継続的協議の場を設けるべき」と提言。
平成22年9月	<ul style="list-style-type: none">菅首相(当時)が「HTLV-1特命チーム」を立ち上げ。
平成22年12月	<ul style="list-style-type: none">HTLV-1特命チーム第4回会合で「HTLV-1総合対策」がとりまとめられる。5つの重点分野として、1)感染予防対策、2)相談支援、3)医療体制の整備、4)普及啓発、情報提供、5)研究開発の推進、から構成。
平成23年7月	<ul style="list-style-type: none">第1回「HTLV-1対策推進協議会」開催。総合対策の推進体制を着実なものとするため、厚生労働省の関係各課の連携、地方自治体や関係機関の協力の下、各種対策取組みを進めている。
平成24年4月	<ul style="list-style-type: none">患者団体が統合され、NPO法人「スマイルリボン」を設立。
平成25年11月	<ul style="list-style-type: none">HTLV-1研究会を母体として「日本HTLV-1学会」設立。
令和3年3月	<ul style="list-style-type: none">日本HTLV-1学会、患者団体からの、HTLV-1の5類感染症指定への要望に基づき、第1回「HTLV-1感染症の感染症法上の取り扱いを検討する小委員会」開催。
令和4年3月	<ul style="list-style-type: none">第2回「HTLV-1感染症の感染症法上の取り扱いを検討する小委員会」開催。
令和4年6月	<ul style="list-style-type: none">第62回「厚生科学審議会感染症部会」で感染症法上の取り扱いについて議論。
令和5年4月	<ul style="list-style-type: none">「HTLV-1普及啓発事業実施要綱」を定め、普及啓発等の事業を開始。
令和6年1月	<ul style="list-style-type: none">第15回「HTLV-1対策推進協議会」を開催。HTLV-1総合対策における進捗情報共有及び厚生科学審議会感染症部会」での議論に基づき5類感染症指定に関するについて議論。

HTLV-1総合対策の骨子

推進体制

国、地方公共団体、医療機関、患者団体等の密接な連携を図り、HTLV-1対策を強力に推進

●厚生労働省：

- ・HTLV-1対策推進協議会の設置 患者、専門家等が参画し、協議会での議論を踏まえて、総合対策を推進
- ・省内連携体制の確立と、窓口担当者の明確化

●都道府県： HTLV-1母子感染対策協議会

●研究班： HTLV-1・ATL・HAMに関連する研究班の総括的な班会議 研究班の連携強化、研究の戦略的推進

重点施策

1 感染予防対策

- 全国的な妊婦のHTLV-1抗体検査と、保健指導の実施体制の整備
- 保健所におけるHTLV-1抗体検査と、相談指導の実施体制の整備

2 相談支援（カウンセリング）

- HTLV-1キャリアやATL・HAM患者に対する相談体制の整備
 - ・相談従事者への研修の実施やマニュアル等の配布
- ※相談体制の構築や手引きの作成等において、患者団体等の協力も得ながら実施

3 医療体制の整備

- 検査精度の向上や発症リスクの解明に向け、標準的なHTLV-1ウイルスのPCR検査方法等の研究の推進
- ATL治療に係る医療連携体制等の整備、地域の中核的医療機関を中心としたHAMの診療体制に関する情報提供
- ATL及びHAMの治療法の開発・研究の推進、診療ガイドラインの策定・普及

4 普及啓発・情報提供

- 厚労省のホームページの充実等、国民への正しい知識の普及
- 母子感染予防のため、ポスター、母子健康手帳に挟むリーフレット等を配布
- 医療従事者や相談担当者に対して、研修等を通じて正しい知識を普及

5 研究開発の推進

- 実態把握、病態解明、診断・治療等の研究を総合的・戦略的に推進
- HTLV-1関連疾患研究領域を設け、研究開発を推進

重点施策 1 感染予防対策（保健所におけるHTLV-1抗体検査の導入）

特定感染症検査等事業において以下のとおり、**HTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）に関する検査及び相談事業**を実施している。HTLV-1厚生労働省健康局長通知「特定感染症検査等事業について」（健発0327012号）平成23年3月29日発出において、実施要綱が改正され、HTLV-1に関する検査及び相談事業が明記された。

特定感染症検査等事業

1 事業の目的

感染症法に基づく「性感染症に関する特定感染症予防指針」に定められる性感染症及び**HTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）に関する検査及び相談事業**、感染症法に基づく「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」に定められるHIV抗体検査及びエイズに関する相談事業、ウイルス性肝炎患者等の重症化予防促進事業、風しん抗体検査事業、麻しん抗体検査事業並びにエムポックス検査事業を促進することにより、これらの感染症の発生の予防・まん延防止及び治療対策の推進を図ることを目的とする。

2 事業の概要

保健所等で行う性感染症（性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、梅毒及び淋菌感染症の5疾患）及び**HTLV-1に関する検査事業及び相談事業**、HIV抗体検査及びエイズに関する相談事業、ウイルス性肝炎患者等の重症化予防促進事業、風しん抗体検査事業、麻しん抗体検査事業並びにエムポックス検査事業に対して補助をするもの。

3 事業の実施主体等

【実施主体】 都道府県、政令市及び特別区

【補助率】 1/2

【R7 予算額】 1,213,328千円※

※ 特定感染症検査・相談関係事業の内数

重点施策 1 感染予防対策（検査・相談実績）

平成23年度から、特定感染症検査等事業において、HTLV-1に関する検査及び相談事業を国庫補助の対象項目として追加した。対象項目：性感染症、HTLV-1、HIV、肝炎ウイルス等。令和7年度の調査対象となった自治体数は157¹⁾で回収率は100%であった。

件数	ホームページによるHTLV-1 相談・検査体制の有無 ²⁾	検査件数	相談件数 (延べ)	一般相談 (内数)	HAM相談 (内数)	ATL相談 (内数)	母子感染相談 (内数)	母子感染を除く感染相談 (内数) ²⁾
平成24年度	-	153	506	-	52	89	-	-
平成25年度	-	202	514	-	65	91	-	-
平成26年度	-	170	443	-	38	103	-	-
平成27年度	-	279	463	-	108	95	-	-
平成28年度	-	118	314	-	47	34	-	-
平成29年度	-	174	310	-	39	39	-	-
平成30年度	-	206	384	-	15	52	-	-
令和元年度 ³⁾	-	-	-	-	-	-	-	-
令和2年度 ³⁾	-	-	-	-	-	-	-	-
令和3年度	-	123	568	295	52	100	145	-
令和4年度	-	87	432	331	30	6	78	-
令和5年度	-	230	483	325	58	24	162	-
令和6年度	40	307	624	388	28	42	173	133

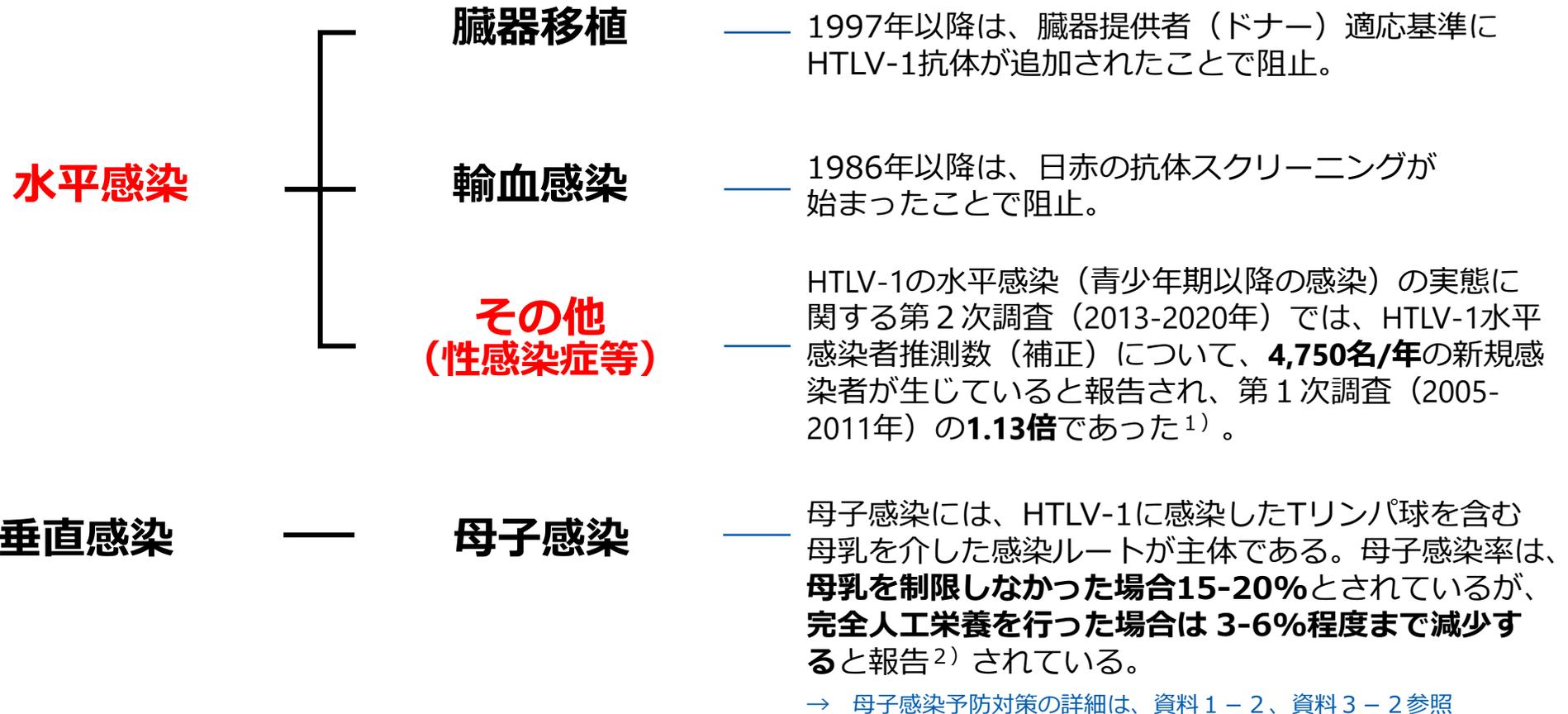
1) 中核市の追加等があり、各年度において対象自治体数は異なる

2) 令和7年度調査（令和6年度実績）より新たに追加した調査項目

3) 新型コロナウイルス感染症の流行等のため調査未実施

重点施策 1 感染予防対策

HTLV-1 の母子感染については、これまでの様々な取組みにより感染者数は減少した。一方でHTLV-1の垂直感染に加えて水平感染による伝播が生じている可能性があるため、**今後は水平感染対策も重要な課題**となっている。



1) 第15回HTLV-1対策推進協議会 資料2 HTLV-1感染実態について

2) 厚生労働科学研究班による HTLV-1 母子感染予防対策マニュアル（第2版）

重点施策 2 相談支援（カウンセリング）

厚生労働省ホームページでは、相談支援体制の整備のために各都道府県のHTLV-1（ATL、HAM、母子感染を含む）の相談窓口を公開し、検索ができるようにしている。さらに、同ホームページにおいて、HTLV-1情報ポータルサイト ほっとらいぶ（厚生労働省委託事業でHTLV-1研究班合同委員会が運営する外部サイト）の情報もご案内している。

このように、HTLV-1普及啓発事業実施要綱（令和5年4月に策定）に基づき、キャリア、医療従事者、キャリアのご家族やパートナー等が、気軽に相談できる体制を整備している。

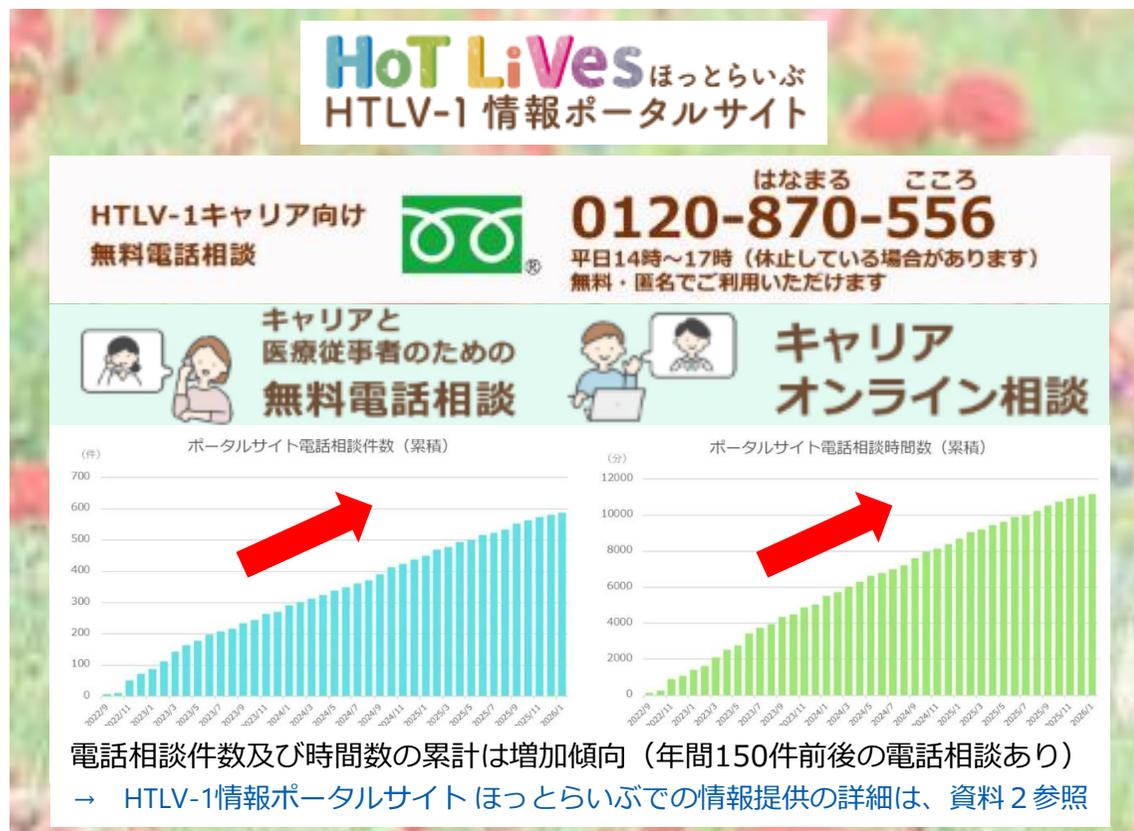


HTLV-1相談・医療機関検索

北海道
青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県
茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県
新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県
岐阜県 静岡県 愛知県 三重県
滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県
徳島県 香川県 愛媛県 高知県
福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県
宮崎県 鹿児島県 沖縄県

相談窓口

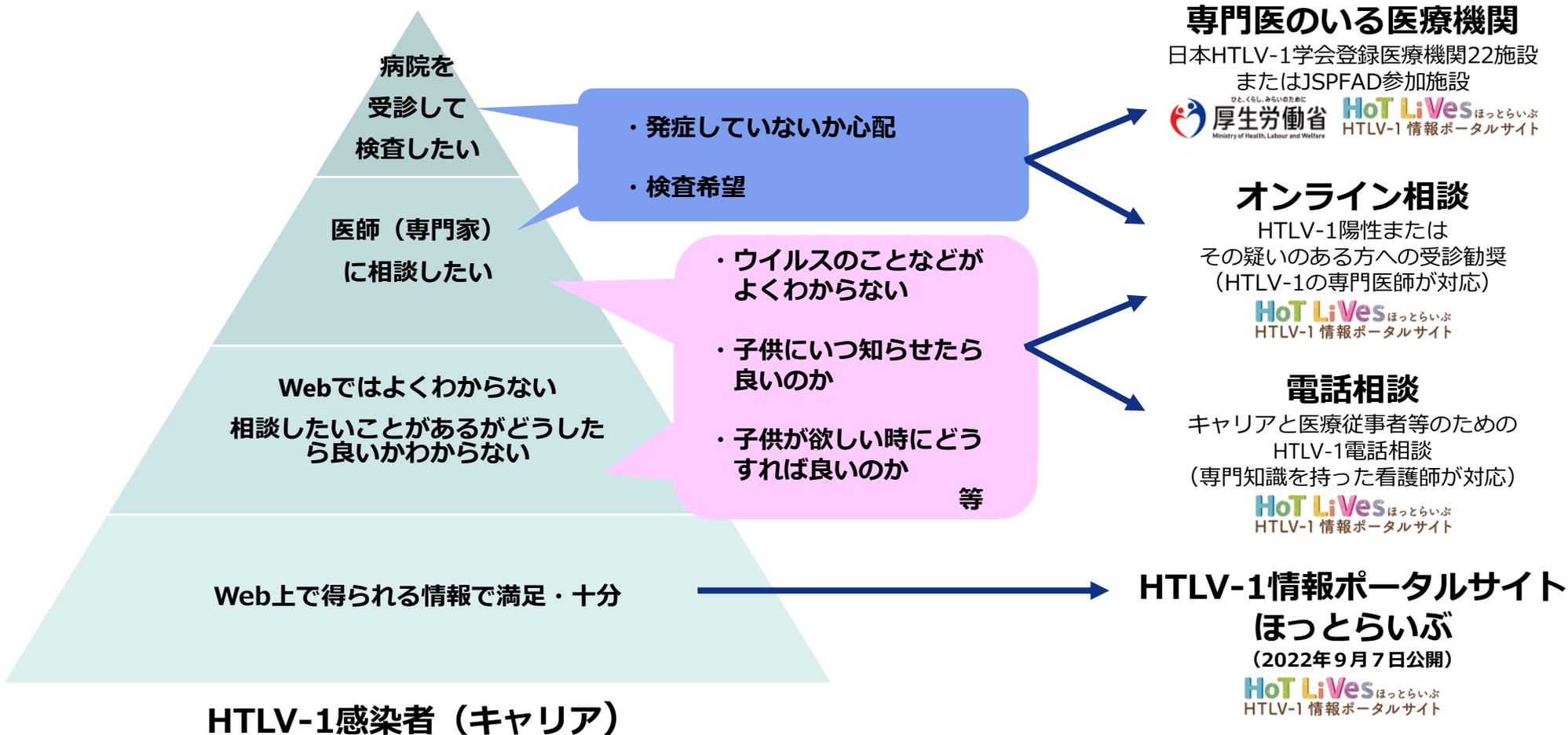
HTLV-1情報ポータルサイト HoT LiVesをご案内
<https://htlv1.jp/>



重点施策 2 相談支援（カウンセリング）

電話相談やオンライン相談を利用し、必要に応じて専門医のいる医療機関へつながるよう、適切な支援が行き届く仕組みになっている。

HTLV-1キャリアの相談・診療ニーズと対応



重点施策 2 相談支援（カウンセリング）

HTLV-1キャリアやATL・HAM患者に対する相談体制の整備のために、相談従事者への研修の実施や手引き等の作成・配布を行っている。これらの一部は、患者団体等の協力も得ながら実施している（資料1-2参照）。

HTLV-1情報ポータルサイト ほっとらいぶでは、HTLV-1を学びたい医療従事者や行政担当者向けに、e-learningとして、HTLV-1とその関連疾患の動画を提供しており、時間や場所を問わず、最新の詳細な知識を習得できる（資料2参照）。

相談担当者向けマニュアル

「HTLV-1 母子感染予防対策マニュアル（第2版）」の作成

- HTLV-1による母子感染を予防するための診療上の留意点などを医師に対し周知する手引きを作成した。
- 平成21年度厚生労働科学特別研究「HTLV-1の母子感染予防に関する研究」（研究代表者：齋藤 滋、富山大学大学院）の報告書を元にして元で作成された「HTLV-1母子感染予防対策医師向け手引き」をアップデートしたものであり、2022年11月に作成。
- 妊婦に対するHTLV-1スクリーニングの進め方、HTLV-1キャリア妊婦のカounselingの進め方とポイント、業務上の感染について等が掲載されている。

研修の実施

- HAM患者に対する相談・支援のための研修、ATL患者に対する相談・支援のための研修を実施している。
- 母子保健指導者養成研修においてHTLV1についての講習も実施している。

e-learning

HTLV-1やHTLV-1関連疾患に関する以下のようなトピックについて、無料で動画をみて学ぶことができる。

- ウイルスと感染（HTLV-1とは、HTLV-1の感染経路、HTLV-1感染診断のアルゴリズム、HTLV-1感染対策の現状と国際的な動向）
- ATL（ATLとは、ATLの新たな治療法開発）
- HAM（HAMの病態形成機序、HAMのリハビリ）
- ぶどう膜炎（HTLV-1ぶどう膜炎/HTLV-1関連ぶどう膜炎とは）

重点施策3 医療体制の整備（ATL治療に係る医療連携体制等の整備）

第4期がん対策推進基本計画にHTLV-1総合対策等について記載しているほか、がん診療連携拠点病院等の整備指針及び関連事務連絡において、がん相談支援センターが情報提供する項目の1つとしてHTLV-1関連疾患であるATLを示している。

第4期がん対策推進基本計画（令和5年3月 閣議決定） 抜粋

1. がん予防 （1）がんの1次予防 ②感染症対策 （現状・課題）

HTLV-1について、国は、平成22（2010）年に取りまとめられた「HTLV-1総合対策」に基づき対策を進めている。また、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（Japan Agency for Medical Research and Development。以下「AMED」という。）において、HTLV-1の実態把握と感染メカニズム解析やHTLV-1の検査法の改善等に関する研究を行っている。

（取り組むべき施策）

国は、感染予防対策を含めたHTLV-1総合対策等を引き続き推進する。

がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針（令和4年8月 健康局長通知別添） 抜粋

II 地域がん診療連携拠点病院の指定要件について

5. 相談支援及び情報の収集提供

（1）がん相談支援センター

相談支援を行う機能を有する部門（以下「がん相談支援センター」という。（略））を設置し、①から⑧の体制を確保した上で、がん患者や家族等が持つ医療や療養等の課題に関して、病院を挙げて全人的な相談支援を行うこと。

①～⑧（略）

がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針に関するQ&Aについて（令和4年9月 事務連絡）

IIの5の（1）のがん相談支援センターの業務内容は具体的にはなにか。

（答）-抜粋-

② がんの治療に関する一般的な情報の提供

ア がんの病態や標準的治療法 イ 自施設で対応可能ながん種や治療法等の診療機能及び、連携する医療機関

ウ アスベストによる肺がん及び中皮腫 エ HTLV-1関連疾患であるATL オ セカンドオピニオンの提示が可能な医師や医療機関の紹介

カ 高齢者のがん治療 キ 患者の治療や意思決定

重点施策3 医療体制の整備（指定難病のHAM等に係る医療連携体制等の整備）

難病の患者に対する医療等の総合的な推進を図るための基本的な方針や難病の医療提供体制の構築に係る手引きの中で、HAM等の難病に関する医療提供体制整備を示している。

難病の患者に対する医療等の総合的な推進を図るための基本的な方針（平成27年厚生労働省告示第375号）抜粋

第三 難病の患者に対する医療を提供する体制の確保に関する事項

（1）基本的な考え方について

難病は、発症してから確定診断までに時間を要する場合が多いことから、できる限り早期に正しい診断ができる体制を構築するとともに、診断後はより身近な医療機関で適切な医療を受けることができる体制を確保する。その際、難病の診断及び治療には、多くの医療機関や診療科等が関係することを踏まえ、それぞれの連携を強化するよう努める。

第七 難病の患者の療養生活の環境整備に関する事項

（1）基本的な考え方について

難病は患者数が少なく、その多様性のために他者からの理解が得にくいほか、療養が長期に及ぶこと等により、難病の患者の生活上の不安が大きいことを踏まえ、難病の患者が住み慣れた地域において安心して暮らすことができるよう、難病の患者を多方面から支えるネットワークの構築を図る。

難病の医療提供体制の構築に係る手引き（平成29年4月14日難病対策課長通知別紙）抜粋

第3 難病の医療提供体制における各医療機能と連携の在り方（モデルケース）

（略）難病の医療提供体制に求められる医療機能と当該機能に対応する医療機関のモデルケースを以下1から5までに示す。

これら個々の医療機能を満たす機関と難病の患者の療養生活を支援する機関が相互に連携し、必要な難病医療及び各種支援が円滑に提供されるよう、難病の患者への支援策等の実施、評価及び改善を通じて、必要な医療提供体制の構築に努めることが求められている。また、その内容を、患者やその家族、その他の関係者等に分かりやすく周知する必要がある。

- 1 より早期に正しい診断をする機能（都道府県難病診療連携拠点病院）
原則、都道府県に一か所、指定する。
- 2 専門領域の診断と治療を提供する機能（難病診療分野別拠点病院）
- 3 身近な医療機関で医療の提供と支援する機能（難病医療協力病院）
- 4 身近な医療機関で医療を提供する機能（一般病院、診療所）
- 5 小児慢性特定疾病児童等の移行期医療に係る機能（移行期医療に係る医療機関）

重点施策3 医療体制の整備（診療ガイドライン作成）

厚生労働科学研究や新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業（AMED）においても、疾患の早期発見と適切な治療を受けられる体制を整えるためガイドラインを作成している。

新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業、AMED

- HTLV-1キャリア診療ガイドライン2024
- HTLV-1の基礎知識Q&AHTLV-1キャリア診療ガイドライン2024別冊「HTLV-1総合対策」推進におけるキャリア対策の基盤整備と適正な研究開発の推進に資する包括的評価と提言のための研究（研究代表者：渡邊俊樹 聖マリアンナ医科大学 医学部）
- HTLV-1感染の診断指針第3版（2024年3月）「HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備」（研究代表者：三浦清徳 長崎大学 医学部）



難治性疾患政策研究

- HTLV-1陽性関節リウマチ患者診療の手引（Q&A）第3版（2025年3月作成）「HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂」（研究代表者：山野嘉久 聖マリアンナ医科大学 医学部）
- HTLV-1関連脊髄症（HAM）診療ガイドライン2025「HAMおよびHTLV-1陽性難病患者のレジストリを活用した診療体制の強化による医療水準ならびに患者QOLの向上」（研究代表者：山野嘉久 聖マリアンナ医科大学 医学部）



重点施策3 医療体制の整備（検査法の改善等）

各研究班において、HTLV-1感染症の診断精度の向上及び検査体制の拡充を目的として、従来の抗体検査の改良及び簡便な検体を用いた検査の実用化を検討した。また、HTLV-1核酸検査（定性法、定量法）の感度及び精度の確認を実施し、妊婦健診等の核酸検査の感度を上げることで、確認検査の判定保留例の診断を可能とし、検査フローの最適化を行った。

検査法の課題

- HTLV-1感染の診断は主として抗体検査に依存しているが、感染初期には抗体検出が困難な場合がある。
- 検査普及のためには、血清分離を必要としない簡便な検査への需要が高い。
- ウエスタンブロット法による確認試験において判定保留となる例が存在する。

検査法の改善

- **ラインブロット（LIA）法の改善**
抗HTLV-1抗体の検出感度を向上させるためLIA法の改良を行い、従来法と比較して診断精度の向上させた。
→ IgGに加えて、IgMも同時に検出できるようになり、感染早期の診断が可能となった。
- **HTLV-1 イムノクロマト法（POCT）の改善**
全血検体及び乾燥血液スポット（DBS）を用いた検査への応用を検討した。
→ 臨床現場で広く利用可能な迅速診断キット開発のため、全血（濾紙血）を用いた新規迅速検査法を開発した。
- **抗体検査・核酸検査のフローの評価・最適化**
確認検査ではLIA法とPCR法を併用することで診断精度を向上させた。
→ 判定保留例の大幅な減少が可能となった



HTLV-1感染症の診断精度の向上および検査体制の拡充が期待される

重点施策 4 普及啓発・情報提供（研究班等における情報提供）

HTLV-1情報ポータルサイト ほっとらいぶは、HTLV-1キャリアやその関係者等が必要とする信頼性の高い情報を、いち早く、わかりやすく届けるために、HTLV-1関連の研究者と臨床家が執筆・監修している総合的な情報サイトである。

幅広い対象者にむけて、HTLV-1のみならずHTLV-1関連疾患についても情報提供を行っている。さらに、患者（HTLV-1キャリアを含む）や医療従事者向けの研究参加・登録システムとしての機能も有している。



- ▶ 運営： HTLV-1感染者コホート共同研究班
- ▶ 目的： HTLV-1キャリアの血液検査結果を解析し、重篤な疾患の前兆をつかみ将来的な治療や発症予防への活用
- ▶ 内容： HTLV-1感染者コホート共同研究に関する情報提供、研究発表会・イベント・講演会・動画・ガイドライン等に関する情報



- ▶ 運営： HAM患者レジストリ「HAMねっと」を活用した病態解明および治療法・予防法の開発に関する研究
- ▶ 目的： より多くのHAM患者の臨床情報や生体試料を収集し、HAMの病態解明や治療法の開発への活用
- ▶ 内容： HAMに関する最新情報、診断・疾患活動性評価・治療効果判定の検査受託、医療従事者向けの相談対応、共同研究等



- ▶ 運営： アグレッシブ成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオペジトリ研究
- ▶ 目的： 予後不良な希少がんであるアグレッシブATLを対象とした全国規模の患者登録システム及び試料収集・保管システムの構築
- ▶ 内容： レジストリ研究に関する情報提供を実施（AMED 革新的がん医療実用化研究事業において支援あり）



HTLV-1について
基礎知識 Q&A

基礎知識を知りたい



最近の研究動向
マニュアル
ガイドライン

各疾患の最新情報



医療従事者向け
e-learning

基礎知識を知りたい



研究参加
登録システム

各疾患の最新情報

一般国民、医療関係者、患者及びキャリア、そのご家族やパートナー等が、相談支援や情報提供を受けられるように、厚生労働省ホームページから、様々な関連情報へアクセスできる仕組みを整備している。

厚生労働科学科学研究事業及び国立研究開発法人日本医療研究開発機構事業（AMED）の研究班、学会等が連携して運営している。

重点施策5 研究開発の推進（令和7年度HTLV-1関連疾患研究領域研究課題）

HTLV-1関連疾患に対して戦略的に研究を行い、総合的な対策に寄与するため、疫学的な実態把握、病態解明、発症の予防、新規医薬品の開発、診断・治療法の開発・確立等にわたるHTLV-1関連疾患研究領域を設置。毎年「HTLV-1関連疾患研究領域研究班合同発表会」を公開で開催（オンライン併用）し、厚生労働省・こども家庭庁・AMEDの支援課題について広く情報共有を実施し、連携を強化している。

所管	事業	研究開発課題名	研究代表者
AMED	新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	HTLV-1潜伏感染制御・根治に向けたiPS細胞由来抗CADM1-CAR-T細胞開発に関する研究	立川 愛
		HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備	三浦 清徳
		ゲノム情報を基盤としたHTLV-1感染症の病態形成機序の解明及び発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究	山岸 誠
		経胎盤感染予防に資する次世代抗HTLV-1抗体医薬製剤開発研究	水上 拓郎
		ウイルス因子と宿主トランスクリプトームの融合による超高精度HTLV-1関連疾患発症予測法および革新的発症予防法の開発	山野 嘉久
	新興・再興感染症研究基盤創生事業（多分野融合研究領域）	HTLV-1 感染症のエピゲノムコードの解読と戦略的創薬を目指した基礎・臨床融合データサイエンス	山岸 誠
		多分野融合研究によるHTLV-1感染症のウイルス感染病態全容解明	佐藤 賢文
	再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム	iPS細胞由来抗CADM1-CAR-T細胞によるATL治療法開発に関する研究	俣野 哲朗
		ATL細胞への革新的送達技術の確立と治療応用	安永 純一郎
		HTLV-1関連脊髄症（HAM）の治療開発を加速する患者特異的iPS細胞を用いた次世代神経病態モデルの開発	山野 嘉久
	難治性疾患実用化研究事業	HAM・HTLV-1陽性難治性疾患の患者レジストリを活用したエビデンス創出研究	山野 嘉久
		HTLV-1 関連脊髄症の自己免疫仮説の実証に基づく新規治療法開発	中島 誠
	革新的がん医療実用化研究事業	ATL新規治療標的の同定と、個別化医療への展開	下田 和哉
		アグレッシブ成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオレポジトリ研究	福田 隆浩
	革新的がん医療実用化研究事業	T細胞性腫瘍に対するCART細胞療法の医師主導治験	渡邊 慶介
成人T細胞性白血病/リンパ腫に対するTax特異的T細胞受容体遺伝子導入免疫細胞療法の医師主導治験		神田 善伸	
医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業 先端国際共同研究推進プログラム（ASPIRE）	グローバルなHTLV-1潜伏拡大の制御	俣野 哲朗	
開発途上国・新興国等における医療技術等実用化研究事業	血液を介する感染症の簡易診断キットの開発	荏原 充宏	
厚生労働省	厚生労働行政推進調査事業費 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	HTLV-1総合対策進捗の現状把握と「普及・啓発・相談対応」の改善・強化のための課題把握とその解決策の検討	渡邊 俊樹
	厚生労働科学研究費 難治性疾患政策研究事業	HAMおよびHTLV-1陽性難病患者のレジストリを活用した診療体制の強化による医療水準ならびに患者QOLの向上	山野 嘉久
こども家庭庁	こども家庭科学研究事業 次世代育成基盤研究事業	HTLV-1キャリア妊産婦の支援体制の構築に関する研究	内丸 薫

重点施策5 研究開発の推進（実態把握、病態解明、治療開発等の研究）

各研究班の連携により、全国一元化レジストリ・バイオレポジトリが構築されており、HTLV-1、HAM、ATLの診療実態把握、病態解明、治療開発に生かされている。例えば、近年、ATLのリスク集団の特定や発症予測等が可能となっており、AMEDの研究班においても検討を進めている。

全国一元化レジストリ・バイオレポジトリの構築



HTLV-1、HAM、ATLの実態把握、病態解明、治療開発

例：キャリアからATL発症のリスク評価法の導入

➤ リスク集団の特定¹⁾

末梢血単核球の中のHTLV-1感染細胞の割合 > 4% → ATL発症高リスク群と考える（キャリアの25%が該当）

➤ ATL発症予測²⁾

ポリクローナルな感染細胞集団の中にモノクローナルに増殖したクローンが出現 → ATL発症高リスクと考える

➤ 感染細胞の形質変化の指標（HAS-Flow法）³⁾

CADM1発現 + CD7発現の低下を認める → ATL細胞と考える（可視化）

1) Iwanaga et al., Blood 2010

2) Karpe et al., Lancet Microb 2025

3) Saito et al., Haematologica. 2025

4) Kobayashi et al., Clin Cancer Res. 2014